



学校だより

3月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～   

感謝の気持ちを込めて

校長 西山 久美子

令和4年度も残り1か月となりました。今年度は年間を通して通常の登校ができ、行事も「3年ぶりに」実施できたものがいくつもありました。行事をはじめ、久しぶりに実施できたいくつもの活動を通し、子ども達がたくましく成長する姿が見られたことが嬉しい1年となりました。

子ども達の成長と、日々の安全で楽しい学校生活は、たくさんの方の温かいご協力があったからこそ、この1年間を振り返っております。1月末には、上星川小の見守り隊の方に子ども達が決めたデザインが描かれた



ジャンパーをお渡しすることができました。暑い日も寒い日も上星川の子ども達のために見守ってくださることのありがたさを改めて感じております。また、給食週間には、調理する方、食材や牛乳を運搬する方、野菜を届けてくださる地域の方など、毎日の給食に関わる方への感謝の思いを寄せ書きに記し掲示しました。他にも、地域の方に出前授業をしていただいたり、まち探検

でまちの施設などを見せていただいたりと、貴重な経験もたくさんできました。このような活動を通して、私たちはいろいろな方に見守られ支えられて生活していることに改めて気付かされます。



当たり前のように過ぎていく日々が、実はたくさんの方の働きによって成り立っていることは、普段あまり意識していないかもしれません。だからこそ、子ども達には機会あるたびに、今このような活動ができるのは、いろいろな人の支えがあるからだと気付いてほしいと思っています。あるとき、校外学習が終わったときに担任が、家の人の準備や校外でお世話になった人の協力のおかげで無事に終わったことを伝えていました。ペア学年で交流したときは、上の学年の子ども達のおかげで楽しい時間が過ごせたことを担任が率先して伝え、それを聞いた子ども達が「ありがとう」と嬉しそうな表情で口々に伝える姿も見られました。このような経験を積み重ねながら、相手への感謝の思いを自然にもつこと、そして自分も誰かのために何かをしたいという気持ちを高めることができるのだと思っています。そして「ありがとう」と言ったときの自分の心の温かさや「ありがとう」と言われたときの喜びを子ども達にたくさん感じてほしいと願っています。

2月24日には、6年生が感謝の会を開きました。6年生の心からの「ありがとう」の言葉に、これまで経験したすべてのことが豊かな心の成長につながっているのだと確信しました。そして今、在校生が6年生への感謝の気持ちを伝えようと飾りを作ったり歌の練習をしたりしています。上星川の「ありがとう」の伝統が受け継がれる3月。学校中に温かい「ありがとう」があふれる毎日になりますように・・・。

この1年間、皆様には上星川小学校への温かいご協力をいただき、本当にありがとうございました。